

会議録

会議の名称	第5回 西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	令和5年7月10日（月曜日）午後2時から4時まで
開催場所	田無第二庁舎5階会議室
出席者	委員：清水晋会長 保谷隆司副会長 飯島享委員 木崎英司委員 桐木美里委員 指田泰弘委員 平松沙彩委員 松川紀代美委員 松崎諭志委員 事務局：高橋泰彦生活文化スポーツ部長 後藤幸男産業振興課長 菅野浩一郎産業振興課商工係長 遠藤集徳産業振興課主任 松本浩己産業振興課主事 コンサルタント：(株)梵まちづくり研究所 黒丸結奈 森唯香 仙波樹果
議題	① 将来像の検討について ② 地域産業の発展と事業者・市民等の相互的な関わりについて ③ 施策体系について
会議資料の名称	次第 第4回西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会 会議録（案） 資料1 将来像 検討案 資料2 地域産業の発展と事業者・市民等の相互的な関わり 資料3 第2次産業振興マスタープランの施策体系 変更案 参考資料 西東京市第3次基本構想・基本計画案 中間のまとめ（抜粋）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>○会長： 定足数に達しているため、第5回西東京市第2次産業振興マスタープラン策定委員会を開会する。</p> <p>2 第4回会議録（案）の承認 《第4回会議録（案）を承認》</p> <p>3 議題</p> <p>① <u>将来像の検討について</u></p> <p>○事務局： 《参考資料に沿って説明》</p> <p>○会長： ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。 《意見・質問なし》</p> <p>○事務局： 《議論の進め方について説明》</p>	

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。

《意見・質問なし》

○事務局：

《資料1に沿って説明》

《グループワーク》

○事務局（Aグループ）：

最初は、方向性としてAの「人々の輝きがまち全体の魅力向上につながる」というイメージや、Dの「新しいことにチャレンジする事業者や市民を応援する」というイメージがよいという意見が多かったが、話し合いを進めていくと、Bの「産業と日常生活が密接につながり、まち全体に影響を及ぼす」というイメージに、Dの「チャレンジを応援する」という要素を加えるのがよいのではないかという結果になった。

産業と市民のつながりをイメージしやすくするために、3の「一人ひとりの営みがいるとりどりの可能性を紡ぎ出すまち 西東京市」の「営み」を「活動」や「行動」という言葉にするとよいのではないかという意見があった。

コロナ禍を経験して、一人ひとりが自主的に行動する時代になったが、つながりは捨てるべきではなく、むしろ必要になっているので、産業や事業者、市民がより密接につながっているということ表現したい。

6の「うまれる・そだつ・つながる 西東京市」について、最初は「地域でうまれる・地域でそだつ・地域でつながる 西東京市」とするのはどうかという意見があった。

「西東京市」の表記について、「市」を付けることに対しては賛同を得られたが、総合計画との統一性が無くなってしまうことについて問題は無いかという意見も出た。

○事務局（Bグループ）：

Aの将来像については、人に焦点があたっている点がよいという一方で、産業振興らしくないという意見もあった。

Bの将来像については、フレーズが長く、言葉遊びをしてごまかしているという意見があり、賛同が得られなかった。

Cの将来像については、産業振興のためにまち全体に意識を持たせられる点、事業者・市民と行政の関わりが示されている点がよいという意見があり、賛同者が多かった。特に、6の「うまれる・そだつ・つながる 西東京市」について、ワードを付け足すことで、イメージが膨らみやすいという意見があった。

Dの将来像については、市の意思を感じやすく、チャレンジしたいと思っている人にも届きやすいという点がよいという意見があった。

Cの「行政がどの産業に関わっていくか」というポイントと、Dの「西東京市らしさ」というポイントを掛け合わせたようなフレーズがよいという結果になった。

6の「うまれる・そだつ・つながる 西東京市」について、最初は「地域でうまれる・地域でそだつ・地域でつながる 西東京市」とするのはどうかという意見が出たが、その後、「ここでうまれる・ここでそだつ・ここでつながる 西東京市」とするとよいのではないかという意見があった。こうすることで、西東京市でチャレンジできるというイメージを膨らませやすくなる。

「西東京市」の表記については、広域多摩や八王子と間違えられてしまうので、全員

一致で「市」を付けて「西東京市」とするべきであるという意見だった。理由があれば、総合計画とは違っていても問題は無いと考える。

○事務局：

Aグループの方向性はB、Bグループの方向性はCとDという結果になった。Aグループでは、どのような点に対して意見や強い思いがあったか。

○委員：

農業と産業のつながりについての話から始まり、農業という視点から見た日常的なつながりや消費者目線でのつながりという話から、徐々にBの「産業と日常生活が密接につながり、まち全体に影響を及ぼす」というイメージがよいのではという流れになった。自分達の日常の場から新しいものを生み出していくという働き方が始まっており、商工会とマッチングしているところもあるようで、そういった話の展開とBのイメージが近かった。

将来像までは踏み込んでいけなかったが、地域の活動や農業者・商業者の活動などが輝くことが重要であると議論した。

○事務局：

一人ひとりの色々な活動や、個々のものが輝くということが重要であり、また、「つながり」という点をBのイメージが一番表すことができているという意見だった。

Bグループでは、どのような考えに基づく意見が出たのか。

○委員：

A～Dの中で、「人が大勢いてにぎわったまちを産業が支える」というイメージから外れているものは無いが、ステークホルダー（市民や行政などの市に関わる全ての人々）に、よりわかってもらえることが重要なのではないかと考えるに至った。

総合計画の基本理念は、ひらがなが多く、やわらかい表現にすることに重きを置き過ぎている印象。ステークホルダーの心に刺さり、産業やそこに関わるチャレンジ、そのサポートについて表しているという点は外せないのではないかと考えるところまで議論が進んだ。

AやBのイメージを否定しているわけではなく、そこも含んだ形でCとDで表せればよいのではないかと考える。

○事務局：

今回はあえて色々なパターンのフレーズを用意したが、これらも伝わりやすさに関わってくると考えている。

今回の計画は「人」に着目しているという点を踏まえて、どのようなフレーズのスタイルだと、より伝わりやすく、わかりやすいと思うか。

○委員：

自分に関係あるのではないかと感じるフレーズの方が、自分のこととして捉えられて多くの人に刺さると思う。8の「『やってみよう！』が見つかるまち 西東京市」はキャッチーでわかりやすいと感じた一方で、6の「うまれる・そだつ・つながる 西東京市」は行政的だと感じた。市民も含めたみんなに関わっていくものなので、市民も身近に感じるものがよいと思う。

○委員：

学生は行政とのつながりが薄いので、将来像を見たときに、市がどのように考えているのかがわかるものがよいと思った。8の「『やってみたい!』が見つかるまち 西東京市」や、9の「挑戦を後押しするまち～ともに進み続ける西東京市～」は、市はこう考えているのだというメッセージ性が伝わるものだと興味を湧く。

○委員：

これから創業したいと考える若い人が大勢いるので、自分もチャレンジできるのだと感じられるものがよいと思う。例えば、8の「やってみたい!」や、9の「挑戦」はストレートにそれが感じられる言葉だと思う。

将来を考えると、チャレンジしたいという市民が大勢出てきてくれることが一番の望みなので、そのようなキャッチコピーがあるとよいのではないかと。

○委員：

まち全体を捉えられるようなメッセージがあると幅が広がるのではないかと。創業支援は西東京市の強みだが、どこに創業を希望する人がいるかは目に見えないので、まち全体に伝わるようなものにしたい。

○事務局：

メッセージ性を持った方がよい、何かしたい人にダイレクトに届くようなメッセージがよい、全体に届く包括的なものがよいなど意見が分かれている。

まだ意見がある方がいれば、発言をお願いしたい。

○委員：

先程の2グループに分かれて行った議論で、3の「一人ひとりの営みがいろとりどりの可能性を紡ぎ出すまち 西東京市」について、「一人ひとりの営み」が「みんなの活動」や「みんなの行動」に置き換えると、メッセージがコンパクトに伝わりやすくなるのではないかと意見があった。

将来像で限定しすぎると施策とかみ合わなくなってしまうので、ほわっとしたものの方がよいのではないかと。

○事務局：

将来像には2つのタイプがある。1つ目は、一番表に出てくるフレーズとして、キャッチーに市の独自性を打ち出してアピールするものである。2つ目は、全体をうまくつなげて収めるためのものである。どちらのタイプでも問題は無いが、どうすべきか意見を聞きたい。

○委員：

シティプロモーションをしていくには、シビックプライドを醸成することが重要であると考えます。そのため、包括的なキーワードが多くなったのではないかと。

○会長：

みんなに伝わるようなメッセージ性の高い言葉を組み合わせるのは難しいことだと感じた。メッセージ性を高めると、どこまで絞り込みをするべきかを考えるのが難しい。

○委員：

6に「ここで」を付け足し、「ここでうまれる・ここでそだつ・ここでつながる 西東京市」とする案はよいと思った。

話題は違うが、現行計画の表紙はレイアウトがよい。農業委員会では、決定事項がどのように全体に関係しているかわかりづらいため、農業委員会で計画の表紙だけでも配って、このようなものにつながっていると示すべきだと思う。

冊子の中身よりも表紙で、農業や商業が参画していることをアピールすべきだと思う。そうすることで、将来像のフレーズも生きてくるのではないかな。

○事務局：

今回は結論を出せないが、ピンポイントで、入れたいニュアンスや表現の仕方、伝え方などのヒントを頂いた。

今回出た意見をもとに作成した案について、次回再度諮るとし、方向性を定め、ゴールに近づくようにしたい。資料は事前に配布し、意見を考えていただけるよう配慮する。

② 地域産業の発展と事業者・市民等の相互的な関わりについて

○事務局：

《資料2に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について委員の意見や質問を求める。

○委員：

資料2の図について、市内には武蔵野大学などがあるが、主体から「在学」を外した理由はあるか。

○事務局：

「在学」も含めた方がよいと感じたので、反映する。入れ方については検討する。

○委員：

資料2の図の中心の「将来像『○○○』」について、現在検討中の将来像がここに入るのか。

○事務局：

現在検討中の将来像が入る。

○会長：

事務局側は具体的にどのような意見を求めているか。

○事務局：

例えば、「主体を3つに分けているが4つにしてもよいのではないかな」「市外事業者と来訪者は同じ括りでもよいのではないかな」といった提案や、主体間の関わりについてカテゴリの分け方などに関する意見を求める。

○委員：

行政がどのように関わるかという点を資料2の図のどこから理解すればよいか。行政についても入れた方がよいのではないか。

「在勤」という言葉があるので、他の言葉は、「在学」「在住」という表記にすべきである。「市民」という言葉は使った方がよいと思うが、「市外事業者」という言葉は他の言い方を考えられないか。

将来像と主体の間の矢印は反対色の方が理解しやすいのではないか。また、主体が緑の濃淡で区別されていることは言われるまで気が付かなかったので、他の色使いにした方がよいのではないか。

○事務局：

行政については真ん中の「将来像」に含めた考えであったが、わかりやすく全面的に出した方がよいと感じた。

言葉・色使いについては検討する。

○委員：

「市外事業者」「来訪者」など細分化していってしまうと表が見づらくなってしまうのではないか。表の枠内を線で分ければよいと思う。また、表の「将来像の実現がもたらす影響・効果」と「将来像の実現のためにできること」の各項目がリンクできるとよい。資料の見栄えについて、工夫するべきである。

○事務局：

表現については模索しながら検討していく。

③ 施策体系について

○事務局：

《資料3に沿って説明》

○会長：

ただ今の説明内容について各委員の意見を求める。

○委員：

資料3の「農業」に関する取り組み内容について、農地の貸借に関する項目を入れていただきたい。一般の方も農業に参入しやすくなり、産業振興に結び付くと考えられる。

○委員：

今後10年でまちは大きく変わると考えられるが、まちのにぎわいをイメージしにくい。また、3-2-6号線の開通後、その沿道に賑わいが無い。今後計画している田無駅南口駅前広場や3-4-21号線、3-4-11号線等の整備が進んでも、そこに賑わいが生まれないと、まちの発展につながらない。都市計画と産業振興のつながりについて、市内での意識や議論が必要なのではないか。単純な基盤の整備だけではつまらない。この点について、目標等を書けるかどうかを議論してもおもしろいのではないか。

資料3の「しごと」に関する取り組み内容について、「市内で開業する事業者への伴走支援」とあるが、あえて「伴走」と表現する必要はあるのか。行政が個別の開業者に

1対1で寄り添う事ができるのか。「伴走」と表現するのはリスクがあると思う。

○事務局：

農地の貸借については、施策1と施策2どちらに含めた方がよいか。

○委員：

「農業の新規参入」といったような文言を入れ、新たに施策3をつくり、そこに入れた方がよいと思う。

○事務局：

策定中の農業振興計画とリンクし、検討を進める。

「伴走」という表現について、創業支援に力を入れているという点、開業した後軌道に乗るまで支援するという点からこのような表現をしている。リスクについては考えられていなかったなので、表現については検討する。

4 その他

○事務局：

《次回委員会は8月下旬を予定》